

## SPECIAL MESSAGE

### 神戸百店会だより



## CONCERT

★松本幸三 愛を唄う

イタリア、中国など国際的に活躍しているテノール歌手、松本幸三がコンパクトディスク製作記念を祝いホテルゴフルリッツでデイナーショーを公演する。氏はミラノ・ヴェルディ音



松本 幸三氏

楽院を卒業した後、ゲルハルト・ヒュッシュ氏等に師事。第5回日伊コンクールに入賞、各国で幅広く活動を続けていく。今回の曲目は「マイウェイ」「時計」など。情熱の籠ったショーが期待される。5月27日(日)7時開演。一人¥23、000 電話 303-15555

## NEWS

★新しくなった神戸地下街  
3月28日に神戸地下街株式会社代表取締役社長が長



田淵 榮次氏

島隆氏より田淵榮次氏へバトンタッチされた。専務取締役には森本泰好氏が留任。百店会の仲間も多く入っている。"さんちか"がこれからどのように変化していくか注目される。  
電話 391-4024 (代)



森本 泰好氏

## RECITAL

★魅惑の音

レービン、キーシン、五嶋みどりなど、クラシック界に力強い新風が吹いているが、85年にウイニアウスキー国際コンクールで優勝したソ連のマキシム・ベンゲロフもそんな注目を集めている神童のひとり。5歳から名指揮者ザハール・ブロン教授の下でバイオリンを習い始め、6歳にしてオーケストラと共演。そうそうたる審査員たちに圧倒的な感動を与えるなど輝かしい経歴の持ち主。  
今回が大阪・神戸での

## CONCERT

★山下洋輔・鈴木一郎

ジョイントコンサート

5月29日にポートピアホテルでジャズ・ピアニスト山下洋輔とギタリスト鈴木一郎のジョイントコンサートが開催される。肘でピアノの鍵盤を打つ独特の奏法を



鈴木 一郎



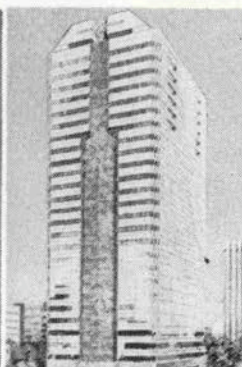
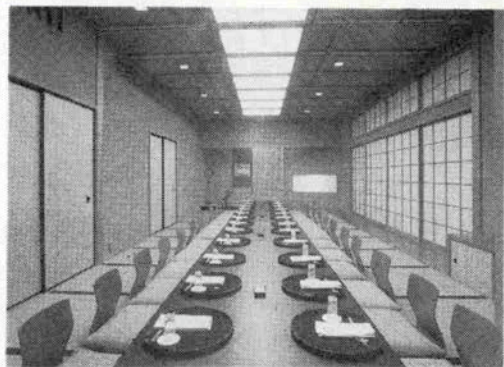
マキシム・ベンゲロフ

初公演となる。クラシックファンならずとも必見の価値あり。  
5月26日(土)7時開演。当日券¥3,500(当日座席引換)於田崎ホール(ポートライナー市民広場駅下車)  
電話 06-341-10547



山下 洋輔

持つ山下洋輔は、欧米でも人気がある。鈴木一郎もカーネギーホールで演奏するなど、国際的な活躍をしている。2人の個性がどのようなにぶつかり合うか注目したい。会場はポートピアホテル本館・倶楽の間で7時30分〜9時。  
電話 302-1111



●伝統ある中にも新しさが  
丸山 和美さん〈ウィンザー  
パスクアリー部主任〉

レディスファッションの老舗「ウィンザー」が3月に新装開店し、新しくグイード・パスクアリー店もオープン。店内は明るいヨーロッパ風でミラノ、パリの洗練されたムードが漂う。「昔からのお得意様や新しいお客様のニーズに応えられるお店にしたいです。」と語る丸山さんはウィンザーに入社して10年以上の大ベテラン。

OPEN

★東京紀尾井町に花隈の料亭「松適家」が開店

大正6年に創業された花隈の料亭「松適家」の紀尾井町店が昨年12月にオープンした。超近代的なビルの一隅の純日本風の店が眼を魅きつける。瀬戸内の新鮮な魚介、最高級神戸牛など、厳選された素材を使用し、渾身の技から生れる逸品の数々は、幾多の美食家たちをうならせることは必至。4〜30名用の個室が用意されており、大切な方のおもてなしに最適。またバーもあり、ゆったりくつろげるのも嬉しい。

●東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル1F  
03-2300-8790

PRESENT CORNER



●ポートピアホテルより  
「コンサートチケット」をジャズピアニスト界の奇才、山下洋輔と海外でも活躍中のギタリスト、鈴木一郎によるジョイントコンサートチケットを3名様にプレゼント。5月29日(火)7時30分より、ポートピアホテルB1、倶楽部の間にて開演。エキサイティングな夜が期待できる。

●応募方法 ●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町11-1大神ビル9F「月刊神戸っ子」神戸百店会プレゼント係までご応募下さい。5月末日消印まで有効です。当選者には神戸っ子から当選葉書を発送、葉書を持って神戸っ子までプレゼントを受け取りにお越し下さい。

TOPICS

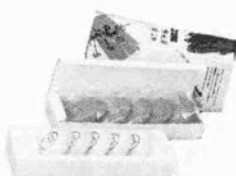
●ポートピアホテル

スペシャルイベント  
カリフォルニアから人気シェフ「ジョン・アッシュ」を招き、「ワインと料理を味わう」というイベントが4月27日から10日間開催された。フランスで料理とワインの知識を習得した氏は、自然の素材を大切にしたい独特のスタイルで、カリフォルニアで広くその名を知られている。生花を用いたり、カリフォルニアナッツをソースに使ったりとヘルシーな味が特徴。¥2,500〜¥8,000のコースがある。

●ポートピアホテル南館4F  
テラスレストラン・レザン  
テラス302-1111



モナカ。食べる直前にセッとするのでパリッと香ばしい味わいが楽しめる。1個¥250で5個入りギフト用は¥1,500。クールギフトとして14個入りは¥5,000。これから夏に向けて、おやつタイムにご進物に、のはのとした、お返し場あひすはいいが。こってりしたアイスクリームに飽きた人は是非一度、お試しを。



●昔懐かしあいすくりん  
モロゾフから新製品「波止場あいす」が登場。その名を表すように形は愛らしい貝形。昔ながらのあっさりとした風味のアイスマイルクを、シヤリシヤリとした歯ざわりの「シメル」ではさんだアイス



# KOBE MODERN CULTURE

## 音楽



★アンドレイ・ニコルスキ

1、ピアノリサイタル

5月17日(木) 19時 神戸文化ホール・中ホール A(指定席) 4、000円 B(当日座席指定) 3、500円

レオン・フライシャー、

ウラディミール・アシュケ

ナージ

た著名

ニスト

を数々



感性のピアニスト

生みだ

しているエリザベート王妃

コンクール。この伝統と栄

光に包まれたピアニストの

登龍門で、'87年見事に優勝

を果たしたアンドレイ・ニコ

ルスキー。豊かな感性で

「叫び」を有する資質を示

す彼の演奏はあなたにきつ

と焼けつくように熱い世界

を見せてくれるであろう。

★モーツァルト・面白ゼミ

ナール

5月31日(木) 18時30分

神戸風月

堂ホール 2、500円

5回目を迎えたモーツァ

ルト・面白ゼミナールの今

回のテーマは、「モーツァ

ルトは「白水星」。司会に

原啓子、ヴァイオリンに福

富博之などのメンバーが加

わり、占いの世界でモーツ

ァルトがいかにミステリア

スな姿を見せるか——に挑



朝比奈千足

は指揮者の朝比奈千

足があ

たり、

ソプラ

ノに藤

原啓子、ヴァイオリンに福

富博之などのメンバーが加

わり、占いの世界でモーツ

ァルトがいかにミステリア

スな姿を見せるか——に挑

戦する。



## 演劇

★新神戸オリエンタル劇場

「ニュー・シェイクスピア

フェスティバル」

演劇ファンにとつては何

とも嬉しい企画、水戸芸術

館ACM劇場オープニング

フェスティバルの参加作品

がそのまま、神戸へやって

くる。競演するのは東西の

人気4劇団。「シェイクス

ピア」

をテー

マに激

しくぶ

つかり

あう。

おすすめ



個性派の競演

マに激

しくぶ

つかり

あう。

おすすめ

めは、なんといっても人気急上昇の花組芝居。艶やかで魅惑的な舞台が期待できそう。

●南河内万歳一座「ハムレット」

5月12日(土) 15時・19時・23日

(日) 15時 2、800円 2、3

00円(3階席)

●第三エロチカ「マクベスという名の男」

5月19日(土) 15時・19時・20日

(日) 15時 3、500円 3、0

00円(3階席)

●遊●機械●全自動シアター「ムー

ンライト」真夏の夜の夢より

5月26日(土) 15時・19時・27日

(日) 15時 3、500円 3、0

00円(3階席)

●花組芝居「花組沙翁劇ロミオ&ジュリエット」ベロリナ渡来花組劇

6月2日(土) 15時・19時・3日

(日) 15時 3、500円 3、0

00円(3階席)

★劇団「ふおるむ」'90年

初夏公演

5月19日(土) 15時・19時・20日

(日) 13時・17時 芦屋カフェ・ホ

ール 一般2、000円 中高生

1、500円

最終列車が出たあとの

小さな

駅に突

然風の

ように

現われ

た見知

らぬ家

族。ふおるむが贈る初夏の

公演「夾竹桃が舞って、風

のような流離いがはじまっ

た」は、そんなシーン

から始まる。人はなぜ、一



家族とは何か？

小さな駅に突然風の

ように

現われ

た見知

らぬ家

族。ふおるむが贈る初夏の

公演「夾竹桃が舞って、風

のような流離いがはじまっ

た」は、そんなシーン

から始まる。人はなぜ、一



## 美術

★南蛮・紅毛・異国趣味展

4月7日(土) 15時20日(日) 10

時17時(入館は16時30分まで)

休館日は毎月曜日、他5月8日火

神戸市立博物館 一般2000円 高

大生1500円 小中生1000円

16世紀に日本と西洋が初

めて出会った歴史的な瞬間

をビジ

シスコ・ユアル

フラン

に見せ

る南蛮

屏風や聖フランシスコ・ザ

ビエル像など、貴重な名品

を展示している。いずれも

保存条件により展示期間を

制限していた館蔵資料なの

で、お見逃しなく。



フラン



## 映画

★人生の彩りを甘く「ドラ

イピングミステイジ」

5月中旬より「神戸新聞会館シネ

マ」にてロードショー(一般1、6

000円 大高生1、300円

アカデミー賞最優秀作品

賞。他9部門ノミネート



人生の黄昏に

した話  
題の映  
画。ア  
メリカ

南部の美しい町・アトラン  
タで静かに余生を過すデ  
ジ。彼女の人生の黄昏に  
は思いがけぬ出会いが待  
っていた。真正面から「人間  
の心」の問題を繊細に描い  
た映像は何の誇張もなく、  
静かな感動を広げてゆく。  
きつと観る者の素晴らしい  
思ひ出となるだろう。

★大坂フィルハーモニー交響楽団  
・森の歌  
13日(日) 14時 西宮市民会館ア  
ミティホール 3500円  
★佐伯幸子ソプラノリサイタル  
18日(金) 18時30分 元町神戸風  
月堂ホール 2500円  
★4ndヴァンガード・ジャズ・  
コンサート  
19日(土) 18時30分 青屋ルナホ  
ール 2800円  
★デュオハヤシリサイタル  
21日(月) 18時30分 兵庫県公館  
内迎賓館 3000円  
★ピアノクワレットのタペ  
24日(木) 13時 兵庫県民小劇場  
2000円  
★神戸市民交響楽団定期演奏会  
27日(日) 14時 神戸文化大ホ  
ル 5000円



## 音楽



## 演劇

★劇舎蜚蜚楼「さらさら」

★黒澤明監督作品集  
「虎の尾を踏む男達」「蜘蛛巣城」  
「隠し砦の三悪人」  
10日(木)・11日(金) 13時20分  
12日(土) 11時 シーガルホール  
12000円



## 映画

★国立スベルドロフスクバレエオ  
ペラ劇場公演  
24日(木) 18時30分 神戸文化中  
ホール 3500円



## 美術

★大丸美術館  
東ヨーロッパ絵画展  
4/26 15/1  
森屋子展  
5/3 15/8  
近代ヨーロッパ絵画展  
5/17 15/22  
現代陶芸春秋会展  
5/24 15/29  
★そごう美術館  
佐藤せつ白紙にぎり絵画  
5/9 15/7  
市川元晴油絵展  
5/17 15/14  
寒正綱書画展  
5/16 15/20  
守屋勳油絵展  
5/23 15/28  
★さんちかホール  
サントア「蚤の市」  
5/3 15/8  
神戸の百人色紙展  
5/10 15/15  
絵師八朗美絵展  
5/17 15/22  
30歳展  
5/24 15/29  
神戸の水道展  
5/31 15/5  
★ギャラリさんちか  
関西版画連盟展  
5/3 15/8

兵庫県日本画家連盟会員展  
5/10 15/15  
フォト・レディス彩写真展  
5/17 15/22  
神戸二紀女流作家展  
5/24 15/29  
揮毫会展  
5/31 15/5  
★海文堂ギャラリー  
吉田博信ガラス切り子展  
5/2 15/8  
タピス・クラベ・タマヨ展  
5/9 15/18  
南和好個展  
5/19 15/25  
★県民アートギャラリー  
第31回日本水彩画会兵庫支部展  
5/2 15/7  
第27回公募交通安全書道展  
5/5 15/6  
第16回文化書道神戸学童展  
5/5 15/6  
ファッションフラワー花穂作品展  
5/8 15/13  
第32回兵庫美術家同盟公募展  
5/9 15/15  
★南京町ギャラリー  
MASANOBU TANAKA  
写真展「流えり子・昭和から平  
成へ唄う」  
5/24 15/29



思わぬ出会いから  
親の違  
う5人  
の子供  
を育て  
るジュ  
ー

★ハッピーな「ロミオアル  
ドとジュリエット」  
5月5日(土)・5月18日(月)  
「ロッポニカ三宮」にてロードショ  
ー一般1,600円 大高生1,  
300円  
大手乳製品会社のロミオ  
アルド。その会社の深夜  
掃除婦  
で、父  
親の違  
う5人  
の子供  
を育て  
るジュ  
ー

リエット。  
ある日、ロミオアルドが  
思わぬ罌を仕掛けられたこ  
とからジュリエットの大活  
躍が始まる。現代のおとし  
断のようなハッピーなハッ  
ピーなオハナシ。  
★ハデに繰りひろげる  
「ローズ家の戦争」  
5月中旬より「阪急会館」にてロ  
ードショー一般1,600円 大高  
生1,300円  
「ロマンシングストーン」  
でお馴染みの名コンビ、



幸福なんて束の間

の離婚大戦争映画。  
幕あけの激しくて、  
愛のゆくえ。  
90年代  
壮烈な  
イナ  
ー  
マイケ  
ル・ダ  
グラス  
とキャ  
サリー  
ン・タ  
ナー

★「ロミオアルドとジュリエット」  
のチケットをプレゼント。葉書に住  
所・氏名を明記の上、神戸っ子「モ  
ダンカルチャー」映画係まで」



# 淀川長治

映画評論家



## ことしのアカデミー作品賞

## 『ドライビング・ミス・デイジー』

これがアカデミー作品賞をとったのは、まだしも「七月四日に生れて」でなかったことでホッとした。「七月四日に生れて」のオリバー・ストーン監督は商算がむき出しで下品だった。しかしこの監督がアカデミーの監督賞をとったのは、今や盛り上ったこの監督の勢いにオスカーも両手をあげたのであろう。

さて「ドライビング・ミス・デイジー」が作品賞を取ったのもやや意外。私には「フィールド・オブ・ドリームス」のほうがはるかに出来は立派と思えたのに。けれども「ドライビング……」が作品賞をとったことで、私はアメリカが今しきりに善良に戻ろうとしていることを感じとった。この「ドライビング……」は、誰だって初めっからラスト・シーンが想像できるストーリーだ。しかも南部のアトランタで一九四八年から二十五年間の老女と黒人運転手の話。初めこの黒人を嫌った老女がその二十五年間に黒人と「こころ」の友となるまでのヒューマン・ストーリー。もう初めっから結果のわかった映画なのだ。最もモダンな新しい感覚のヒューマン・ストーリーの「フィールド・オブ・ドリームス」、これはいったい何のことかわからぬうちに胸にせまるあたらしいタイプのヒューマン・ストーリーなのに、これを蹴って「ドライビング……」に作品賞が行ったのは何ごとかと思う。

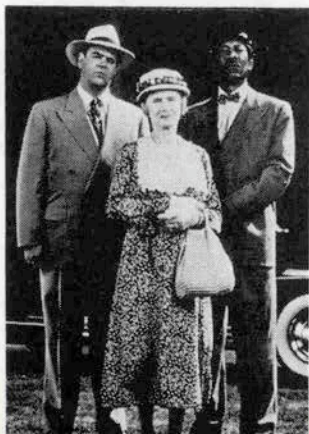
けれども「ドライビング……」はいかにもわかりいい。しかも黒人ぎらいの土地だった南部アトランタで、

ユダヤ人で学校教師をしていたかたくなな老女七十二歳がその二十五年間のあいだに黒人運転手を家族同然の友にする。そしてラストは、数えて九十七歳にもなるうとする老女が、黒人運転手からスプーンですくってもらった皿のオレンジを小さく口を開けて食べさせてもらう。これは泣く涙も出ないわかりきった映画である。けれども、タンタンとすなおにストーリーは進む。老女の黒人への冷たさもややコッケイ。また黒人運転手が叱られても柳に風と受け流す。この主人と召使いのシュティエイションはまさにハマリキッタ型であるのに、この映画からはほほえましくさわやかな風が吹く。

考えると今アメリカ映画はもう一度戦前のあのアメリカの美しい映画、その時代を取り戻そうとしているかに見えた。思えばレオ・マッケレイ監督の「明日は来らず」（一九三七）や「我が道を行く」（一九四四）あたりに戻りたがっているように思え、単純にわかり、単純に

涙し、しゃがでてじっくりと考えてくるとしみじみとわかってくるような映画をアメリカ

すなおに、型にはまったストーリー

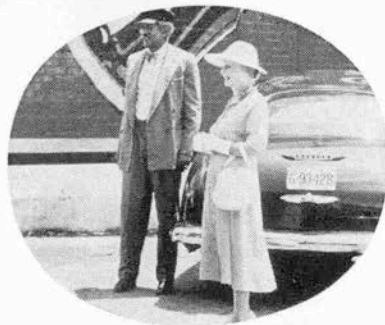




母（ジェシカ・タンディ）は、息子のプレゼントが気に入らなかった。  
5月12日より神戸新聞会館シネマIにて上映。

らためて着めだしたというのであろうか。じっさい「我が道を往く」をよかったよかったと言ったあのころ、日本に上陸したアメリカ兵の顔はいかにも善良だった。ところが、このごろの車の追っかけ、ガン・ブレイの恐怖、それらのアクション映画を楽しむアメリカ人あるいは日本人の顔にはやさしさが無い。アメリカがオスカ像を「デイジー……」に与えたのも「アメリカよ目をさませ……」かもしれない。

しかしまたこれがオスカを取ったのは、主役のジェシカ・タンディゆえでもある。舞台の指折り女優で「慾望という名の電車」のあの主役のブランシュも演じたことがある。映画では「鳥」に出たり「コクーン」には夫のヒューム・クロニンとも出てはいるが、まともにデンとおさまった主役はこれが初めてで、これがまた



オスカ賞をもたらしたか。オスカは「デイジー……」に作品・主演女優・脚色・メイクと華やかに受賞をならべたが、メイクこれはこの老女を九十七歳という年にしたことで賞を取ったのであろう。ほんとうはジェシカ・タンディは八十一歳だよ。

×

×

かいつまんでストーリーを話すと老女はやもめで息子は町のさる会社の社長。

この母たる老女はユダヤ人で、すっかりものでケチ。ところが事故をおこし、もう老女の運転ではあぶないと息子（ダン・エクロイド）が少し上等な車をプレゼントした。しかも黒人の運転手（モーガン・フリーマン）つきで、これがシマツ屋の母には気に入らなかった。とくに黒人運転手つきがいかに気に入らなかった。自分はまだ運転はできるというわけでこの老女は黒人を、ときにきびしく、ときに皮肉にいじめるのだが、世の中のことを知りすぎた苦勞人肌（くろうんどんはだ）の黒人運転手はやわらかくこの老女にしたがって、老女の本当のフレンドになってゆく。ジェシカはもちろんだが息子役のコメディ型だったダン・エクロイドが舞台的演技ながら実に巧い。もともとこれはブロードウェイで四年間ロングランのヒットをとった芝居の映画化だ。さて共演のモーガン・フリーマンは舞台あがりの実に巧い黒人俳優だが、ここではさとりすぎた演技でもって、ジェシカを食わぬひかえめ。これが助演男優賞を「グロリー」の黒人俳優デンゼル・ワシントンにゆずるはめになったのか。とにかくサラリとしたモーガンの演技も捨てがたい。監督は、ブルース・ベレスフォード。



# ポケット ジャーナル



★神戸の玄関口華麗に変身  
JR三ノ宮駅が改修へ  
神戸の表玄関とも言える  
JR三ノ宮駅が、2年後に  
華麗な変身を遂げる。



生まれ変わるJR三ノ宮駅

1937年の高架化以来、大きな改造も行っておらず、雑然とした店舗配置や乗車口と降車口が異なる中央口と東口といった具合に、ターミナル駅としては設備も不十分な同駅。

今回の改修では、(1)改札口を中央部分に集約。(2)旅行センターを中央コンコースに移転。(3)駅東側を家族連れに親しまれるゾーン、中央及び西側をヤング向けの旅の想い出を演出するゾーンと配置。(4)駅全体のイメージを「歴史と共生する

ハイスセンスな駅「情報と文化のキーステーション」とする等の整備がなされる。使用開始予定は1992年4月。

★太陽神戸三井銀行がいよいよスタート

昨年8月29日の合併構想発表以来、注目を集めていた太陽神戸三井銀行が4月1日に正式発足した。新銀行の本店は東京となるが、浪花町にある旧太陽神戸銀行の本店ビルは神戸本部となる。

今回の合併で預金高が第2位に躍り出た同行だが、真価が問われるのはこれからであろう。

★神戸の景観形成に一役

第4回神戸景観・ポイント賞の受賞作が決まり、3月23日に表彰式が行われた。同賞は神戸の景観形成に寄与したと思われる建築物等の中で、特にその場所にふさわしいポイントに配慮されているものを表彰す

る賞。  
今回の受賞作と受賞理由は次の通り。



サインで評価された今西ビル

シラカワレジデンス(異人館の保存・敷設処理)、ステラ三宮(夜景の演出、シテイライフ三宮ビル(敷設処理)、神戸伊藤町今西ビル(サイン)、プラネットブルー神戸(夜景の演出)、神戸大学医学部附属病院(敷設処理)、NKTビル(敷設処理)、ニットコーベ本社ビル(エントランスの処理)、ホテルモントレ神戸(敷設処理)、嵯峨山屋神戸支店・神戸物流センター(モニメント)。

また特別賞が、明石海峡大橋舞子作業基地コンクリートプラント(ランドマークの修景)に贈られた。

★国際的視野からの

街づくりを目指して

テーマはアーバンデザイン——全国景観会議の主催による「国際景観会議ひろご'90」が5月30・31日の両日、神戸国際会議場メインホールで開催される。

★誕生日ありがとう運動



青春の想い出

昨年9月に開かれたフェスティバル神戸大会に、私は通訳として参加しました。いろいろなる障害のある選手たち、目の見えない人、手足の悪い人、下半身がなくてスケートボードに乗って移動している人。障害は違っていますが、障害に負けずに一生懸命に生きている姿は共通しています。私が友達になった人は、義足で100メートルを12秒で走り、金メダルを貰いました。私はこれらの競技を見ていて、驚きと感動の連続でした。ちやっとした事ですぐ挫折する自分が情けなくて、胸がしめつけられる思いがしました。

私がこの大会で得たものは、様々な国の友だちと、素直に感動できる気持ちです。さよならパーティの席で、「いつかオーストラリアに来て、これからいい友だちでいよう」といってくれた人がいました。私はその時、人の温かさをしっかりと感じることができました。選手たちとの出会い、素晴らしい競技、楽しかった交流行事などが次々と思い出され、「これが感動なんだ」と、はつきりわかりました。

またこのような機会があったらぜひ参加したいと思っています。

——S学園高校学園手帳から——

感動を忘れた世代といわれる彼女に、感動を与えたものは？

誕生日ありがとう運動本部

651神戸市中央区御幸通8-11-6  
神戸国際会館1階 郵便局の隣  
☎078-1233112 114

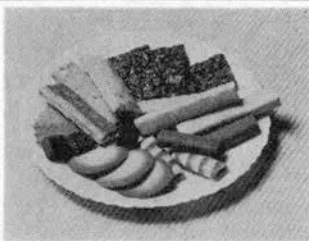
アメニティ豊かな環境を創造し、世界に誇れる美しい街づくりを進めるため国際的視野からの技術や情報との交流を図るための会議となる。

講演は映像作家の吉田直哉氏、フランスの建築家ポール・アンドリュース氏の両名。また如月小春さん、幸田シヤミンさん、残間里江子さんといったユニークなパネリストを集めてのセッションも行われる。

■問い合わせ：国際景観会議ひょうご事務局 電話3611-1975

### ★洋菓子ファンは大集合

5月3日～8日に大丸神戸店で「第3回味の名匠・技のエスプリ洋菓子天国K O B E展」が開催される。監修はサンテレビのディ



洋菓子はやはり神戸です

レクターで「洋菓子天国K O B E」の著者である村上和子さん。

内容は①名匠30名による工芸菓子の作品展示。②ミニショップを展開しケーキ

の製作販売。③ケーキパーティスペースを設置しケーキの試食。④毎日12時と3時に民俗婚礼衣装の花嫁による祝い菓子のサービス等。

旧居留地が生み出した神戸ハイカラ文化の代表とも言える洋菓子文化の真髄に触れる絶好の機会である。★ステーションネームは

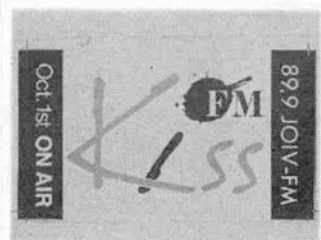
### “FM Kiss”

10月1日に開局を控えている兵庫FMラジオ放送(上島達司社長・本社神戸)の局の愛称が「エフエム・キッス」に決まった。

局とリスナーとの親密な関係を表現している、女性のかわいい色気を感じさせるなどの理由でこの名称が採用され、今後は局のキ



FMキッスをヨロシクと広報の布施さん



FMキッスのロゴマーク

ヤッチフレーズとしても使用していく。

番組の編成は、一つ一つが個性を持ちながらも、虹のように変化する「レインボー・レペルトワール」(虹の編成)をコンセプトに、TPOに合わせた音楽情報を発信し、感性豊かなLa

(女性)を中心に都会派のヤング・ヤングアダルト層の“kissner”(キッスナリスナーの合成語)をターゲットに、神戸らしい高感度ステーションをクリエートしていく。

■FMキッスより開局PRステッカーとカードセットを7名様にプレゼント。神戸っ子「FMキッス係」まで筆書でお申し込みを。

### ★バザーへの誘い

先月号の本欄で、神戸南RVC主催による語学講習会の紹介をしたが、続いて同団体では留学生を対象としたバザーを行う。

5月27日午前11時から、ポートアイランドの田崎ダイヤモンドスクエア(田崎ジュエリービル内)にて。

今回のバザーには和洋食器類、ポット等の商品が出品され、留学生に対してはRVC設定市価の1割で、一般には同じく3割で販売される。

掘り出し物もザクザクありそうなので、足を運んでみては如何でしょうか。

### 図書ガイド



夢のように日は過ぎて  
田辺 聖子

35歳のOLをヒロインに、そのオトコ達との交流を描く連作短篇集。成熟したい女・声村タヨリとそのグループの間で戦わされるお嬢さんお得意のオトコ論が見どころ。自分だけのフレージングを持って世を渡るOLたちの言動が、時折り可愛い子ブリッ子したり、ちょっと可愛い口にも味がない。あんなとした語り口に味がない。(新潮社刊 11500円)



サラリーマン・定年前後  
岡見 裕輔

会社を辞め現在は大学で日本近代史の講師を務める筆者が、定年前後に書いたものをまとめた詩集。単純明快な散文で「生命保険が満期になったような気がして」退社するといった、人生そのものを斜交に見る視点が、ユーモラスで新鮮に感じられる。布団に寝転がって寝酒をチビチビやるサラリーマンに是非お勧めしたい。(編集工房ノア刊 20000円)



楽がき  
野倉 健司

同人誌の匂いのする手作りのエッセイ集。手書きオフで少々読み難い処はあるが、長年、岐阜の文化向上に努めてこられた筆者の、その人生に於て得た体験をもとに書かれたエッセイは、生活臭が染み込んでいる。リアルタイムで書かれたものだから、同年代(70才)の方には響けるのではなかろうか。自費出版 問合せ058221-315770(5000円)



## ★味わい深い一服を

日本たばこ産業が今春の目玉商品として登場させた「セレクトスベシヤルライト」(キングサイズ 20本入

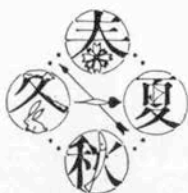


リッチな味わいを

250円) 選びぬかれた上質葉と熟練の技術が生み出したリッチな味わいで、愛煙家の評判も上々。

やすらぎのひと時に、どうぞお試し下さい。

## 花時計



遅れをとる「神戸」

神戸という街の特質と目指している方向として第一にファッション都市神戸の創造がある。そして、コンベンション都市神戸を目指す、という方向がある。もうひとつには、国際スポーツ都市として名乗りを上げてい

る。さらに、昨秋、W・F・Fが実施されたのを機会にグルメ都市宣言が行われ、指向するべき道を探している。それぞれに先鞭をつけて、振返って見れば先鞭はつけたものの、他都市の追い上げが激しく追い抜かれている。例えば、コンベンション施設などは、神戸は漸く見本市展示場の二館目が陽の目を見る。最近完成した「幕張メッセ」の規模はドイツのデュッセル



「くいーんろっこう」で淡路へ

★グルメとクルージングのエキサイティングな出逢い 4月14日、淡路フェリーボートの双胴高速クルーザー「くいーんろっこう」の淡路島一周クルージングとホテルアナガの和食グルメをカップリングしたツアーが、家族連れやカップルを

集めて行われた。大人から子供まで無条件に瀬戸内の風と料理を楽しんでいた。5月12日にも同様の企画が予定されており、こちらは料理が洋食に変わる。お問合せ・お申込みは、淡路フェリーポート ☎735-0888まで。

★布引の滝が 全国の滝百選に選ばれた。これは自然景観に優れ、また滝周辺の自然環境も考慮の上、決定されたもの。主催の環境保護団体では住民の手で滝を守ってほしいと期待している。

ルドルフのメッセ会場に匹敵する程である。大阪南港の見本市会場インテックス大阪も全七館を擁する堂々たる施設である。

神戸は何故遅れをとるのか、折角にフレッシュな清新なアイデア、情報を得ながら生かせない。

兎と亀の競争もどきではないか。折角のヴィジョンを掲げても実現させていく気力と気迫がなければどうにもならぬ。

△Y△

## ●KOBE POST

★社会党の河上民雄前衆議院議員は、国会在職20年、政治生活23年に終止符を打ち、東京と神戸を足場に、学問と評論の道を進まれます。

自宅 〒653長田区御屋敷通3-11-1505 東京 〒151東京都渋谷区西原2-37-6

★4月9日(月)より、株式会社シヤルレ(林雅晴代表取締役社長)の本社が移転。〒654-01須磨区弥栄台3-11-3 ☎078-792-7000

★新星和不動産株式会社(平島一代表取締役社長)の神戸支店が移転。長・浦長瀬の神戸支店が移転。新住所は〒651中央区渡辺通2-1-3 8三宮南ビル2F ☎078-241-3001

★サウナとエステティックの神戸レディスサウナ(山田佳子社長)が、19周年を迎え、4月20日(日)夜1時迄、チャリティ100円薬草浴を行いました。当日のサウナ料金はすべて福祉施設に贈られました。中央区下山手通2-1-10 ワシントンホテル向い ☎078-321-4742

★エドモンス大学日本校 滝田弘利(理事長)が4月10日に開学。11日に入学式を挙行。学校所在地は北区山田町小部字大脇山 ☎592-2200 神鉄北鈴蘭台駅下車東へ15分(徒歩約20分)

★月刊神戸っ子サンパチームのダンスリーダー・安田美枝さんが、4月4日に「若い葡萄」という名の喫茶店をオープン。新住所は中央区渡辺通1-11-18カサベラ国際プラザビルB1 ☎078-251-5056

★5月1日付で、有限会社月刊神戸っ子の子社長に小泉康夫、編集長に小泉美喜子、副編集長に佐井裕勝が就任しました。

◎訂正とお詫び 本誌4月号のぼるたじ「神戸の写真説明で、ロイヤルパールはオリエンタルパール商會に訂正し心よりお詫び致します。

# 心の風景

〈8〉

## 名精神科医

高橋 孟  
△マンガと文△



今年89歳になる寝たきりの老婆が、ある日突然歩きだして、介護に疲れはてていた娘を驚かせたという。娘というのは、私の仲間の女性マンガ家で「ほんとにマンガのような話なの!」と声を弾ませている。

ある日「絵でも描いたら!」と、買ってきたスケッチブックとクレヨンは何げなく置いたら、お母さんが飛びついてきたのだそうだ。世の中には不思議なこともあるものだ。と、聞いた私も驚いた。ボケていたはずのお母さんが「急に眼が輝いてきたのよ!」という。それからというものは、毎日のように、近くの公園に出かけてはスケッチをはじめ、見物人にほめられて生き生きしているそうだ「それがまた上手なの!」と二度ビックリしている。

お母さんは、その昔文学少女だったらしいから、今までは原稿用紙をあたえてあったらしい。ほんとは、絵が描きたかったのかもしれない。医学的にどう説明できるか知らないが、潜在能力を引き出させた彼女のアイデアに感服するばかりだ。彼女が精神科医なら「名医」というべきだろう。

後日、酒友の医者に話したら「医学書にないものが人体を左右することがある」それで、生かすも殺すも医者の言葉次第ということもある」のだそうだ。

そこで、つくづく、私がボケたら娘が△何をあたえてくれるだろうか……△と思うのである。

株式会社 オータニ徳風社  
代表取締役 大谷昌代  
全国葬祭事業協同組合  
神戸葬祭事業協同組合理事  
神戸市規格葬儀取扱指定店理事  
本社/神戸市長田区松野通1-11-12  
☎078-62110089  
鈴蘭台支店/☎078-59215485



神戸じゅうたーる



第11回

# たつた一つの靴

有井 基

△フリーライター▽

—Hazine Arit—

カメラ・池田 年夫

革工芸)の教室を開いた四、五年前だったろうか。

だれが名づけたのか「魔法の靴」が、評判を呼んでいる。クリエイターの寺前利教さん(てらまき)にいわせれば、魔法でも何でもないのだが、靴に対する意識革命へ、起爆効果をもたらせたことは確かだろう。

いつだったか、酒の席で

「おたくの靴、作っただげるわ」

いわれるまま同じ年の気安さもあって、紙の上に立つと、ボールペンで足型をなぞられた。しばらくして、グリーン(緑)の皮靴が届いた。はいてみると、靴をはいたという感覚はない。阿波踊りの足袋(たび)はだしながらである。

舞い踊る気分のはずみで、座敷を歩き回った。小学校の遠足前夜、新しい運動靴をはいて行ったり来たりしたように。

だから、PRにならないよう、ありのままを紹介したいと思った。しかし、神戸市長田区荻藻通六丁目七ノ一の大産産業を訪ねて、なまじつかなPRは、かえって寺前さんに迷惑をかけることに気づかされた。全国からの注文、要望に応じかねる状態を、この目で見たからである。

もともとが皮革材料と靴の中底の卸業者だった。今も、牛皮が作業所、倉庫に、天井まで積み上げられている。その「本職」をほっぽり出して?「ラ・クーツ(楽なクツ)」に打ち込むきっかけは、レザー・クラフト(皮

の毎日でしたねえ」

まず中底を中心に、両翼の甲皮を折り合わせてステッチをつづるだけで、だれでも手作り可能なところへ到達した。靴の手作りなど考えられないという「常識」を、まず破って、世界でただ一足の「自分の靴」を送り出した。

「お客さんの足のサイズを測って、それを一枚の皮から裁断し、靴底、ロウびきの麻糸、縫い糸、接着剤、靴型などをキット(材料ひとそろえ)にして、説明書通りに作ってもらうようにしたんです」

今でこそ、こともなげに語るが、当時の苦心がどんなものかは知っている。

足型をとりながら、人間の足は右と左とでは長さも幅もちがうことに、イヤというほど思い当たる。まして、足が変形している人の、いかに多いかに、びっくりしたという。

「その典型が、外反母指(がいはばほし)(親指の骨が外側に突き出て、靴をはけば痛む症状)です。原因は靴ですわ。本来、足の形は地下足袋(たび)みたいにながら開いてますわね。それを、デ



最近、親指の骨が外側に突き出て、靴をはけば痛むという「外反母指」がふえている。デザイン優先の靴造りがもたらした典型的な弊害である。

ザイン優先で、先のとがった、きゅうくつな型へ押し込  
んで、おまけに、ハイヒールなんか、すべり台（ヒール  
の傾斜）にかけて、先へ先へと全体重を乗せていくんや  
から、足形がいびきのも当たり前なんです」  
自分の足に合ってこそ、自分の靴だ。なのに、靴に足  
を合わせるために足が変形する、というのでは異常な逆  
現象だという。並みの商人なら、それを基本に、注文  
生産に応じるところだが、寺前さんはちがう。  
「マスコミで、自分の靴が手作り出来る、と報道され  
たら、最初は関東、その後は中部・近畿の各地から障害  
を持った人の問い合わせが殺倒しましてね。電話が一日  
二回、パンクしてしもた。それほど、足の障害に悩んで  
いる人が多いことを知って、改めて考えましたわ」  
相談の電話があると、東京でも静岡でも、寺前さんは  
出かける。生まれてから靴をはいたことはない、という  
人もいる。そんな時ほど寺前さんはフアイトを燃やす。  
「僕が会った一人は、既製の靴がはけないために、外  
出する時は、ビニールの袋で足首をぐるぐる巻きにして  
ました。僕の思いも、いっしょです。風呂敷で足を包み  
込む感覚がすべてなんやから」  
まず足があつて、それを包む靴がある、という発想だ。

靴に足を合わせるのではなく、足に靴を合わせる。  
チョットした逆発想から生まれた「魔法の靴」。



もちろん、風呂敷ならぬ皮袋で足を包んだとて、靴とい  
う体裁にはならない。大きさもデザインも、さまざまで  
あつても、靴に変わりはしないのだから。

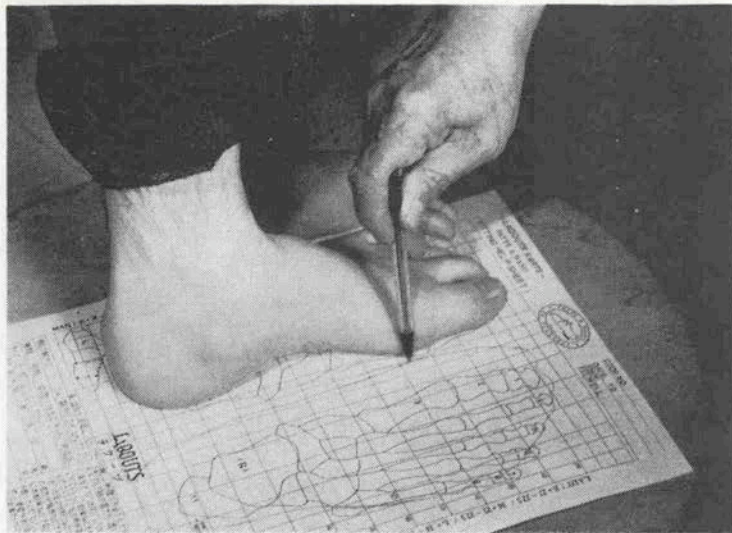
事務所の日程表は、ビッシリ埋まっている。東京YMC  
A、マツサカヤ名古屋友の会、大阪毎日文化センタ  
ー、灘神戸生協文化センター、岡山朝日カルチャーセン  
ター……。いずれも寺前さんの講座を待っている。

「商売の宣伝で行くと違いまっせ。これだけは聞い  
といてよ。女の人の七割から八割が、親指の付け根が痛  
い、小指のツメが変形した、と「症状」を訴えているの  
は、デザインだけの靴に原因があることをいいたいこと  
と、靴というのは、自分の足のためにあることを知って  
欲しいためや、いうことを」

だけど、ふつう講座の時間設定は、二時間がいいとこ  
ろだ。時間内で一足つくり上げるのは難しい。それを、  
せめて三時間で編み上げるところまでプログラミングし  
て、二時間以内に到達感を味あわせるよう工夫した。そ  
れが「大受け」を加速させている。

しかし、何ぶん本物の牛皮である。原価がどうなつて





皮の裁断は頭から尾の方向に沿って切りとられる。よりいっそうにぴったりと合う靴を作るための細やかな配慮がなされている。



人それぞれに違う足のサイズ。また、同じ人でも右足と左足では長さも幅も微妙に違う。足を包みこむという視点から出来あがったラ・クーツはどんな人の足にもジャストフィットする。

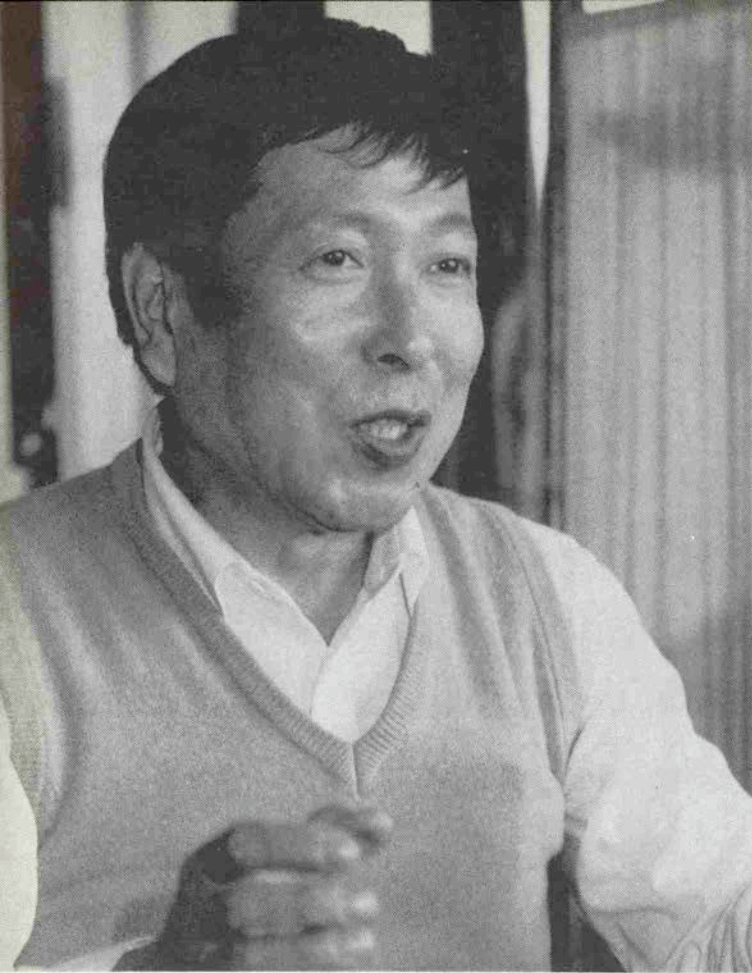


いるのかは知らないが、消費者感覚からすれば、さほど安くはないという思い込みもある。それでいて、キットが女性用八千五百円、男性用が八千八百円。

「もうからんついでに、もっただけいうとくわ。皮は生きものや、ということは知ってやろ。皮も呼吸しとるんやから。それとなあ、牛一頭の丸革でも、トリミング（切りとり方）があるんですわ」

牛の頭から尾の方向に沿って皮を切りとると、皮は左右に伸びる。だから、靴にしたとき、窮屈さを緩和させる。それを、背中と腹とのタテの方向でとれば、無駄を少なくとれるが、靴としては左右の弾力がなく、足をしめつけるだけだ。

採算を考えれば後者を選びたいところだが寺前さんは「はき心地が靴の生命。うちは、ぜいたくに使う」と、



「足の障害に悩んでいる人がいかに多いか。デザイン優先の靴づくりに対する意識革命が必要です」と熱い口調で語る寺前さん。

方針を曲げない。

そうした職人氣質が若い人たちには理解されないせいか、情熱的に仕込んだ職人さんが次々と辞めて行つて、今では三人になった。最も気になるところだが

「ようけ、礼状をもらてますねん」

いささか見当違いな答えが返ってきた。目の前に積まれたハガキ、手紙は、ざっと二百通だが、靴による苦痛から解放された喜びの声は十倍を越すという。玉津のリハビリテーションセンターに拠点を置く脳卒中友の会の機関紙などで、寺前さんのことが紹介されている。いずれも、ボランティア扱いである。

「この反響が、ものすごうれしくてなあ。せやけど、僕一代で、この仕事はしまいや、あと継いでくれる人がおらん。そない思うたら……」

寺前さんは、そこで言葉を切った。どこかでフツ切れ

ている。善人ゆえに商売と結びつけることをためらい、さりとて商売人として、これを、どう継続発展させるか、悩んでいるはずなのに。

あるいは、そうした反響に支えられて、揺らぐことのない自信がついたせいなのか。

「キットに入れる足型にしても、ふつうなら（アルミや樹脂なら）高くつくんですが、メーカーに頼んで硬質発泡スチロールで作ってもらたら、ものすごくコストを下げるものが出来ましてねえ」

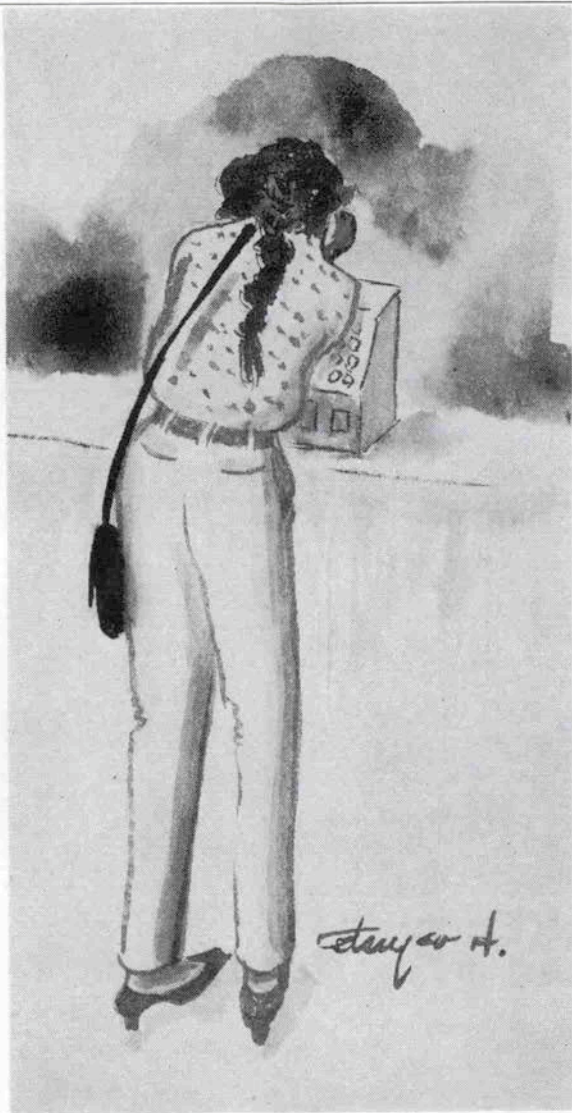
つまり、やる気なのだ。高級なオーダーメイドとは全くちがって、足の健康を守るカジュアル・グッツとしての「ラ・クーツ」を、生み出した誇りが、いま、この人を包んでいる。

もつとPRしてくれればいいのに。



■ 第14回神戸文学賞佳作作品

# 夏の遠景



△第2回▽

伊々田 桃

絵／羽多悦子 △題字も▽

その夕方、依子はG町へ行った。

「帰りのバスは七時で終わるんやで、今頃から行かんでも、明日にすれば」

出際に玄関まで追いかけてきた母の目は、哀願で潤んでさえた。

「高校の友達に会うのよ」

最もそう言えた。

「陽がかけて出かけるなんて、誰が見てどんなふう误解するかわからんやろう」

「相変わらず、世間体を気にしてるのね、私だったら何を言われても平気なだけだ」

淡々とした返答に、母の顔が苦痛に歪む。こんなやりとり事態もだが、母の泣き面を見るのは、ひどく煩わしかった。運良くと言おうか、奥の間から父の声がした。

「ほら、お父さんが呼んでるよ」

唇に笑いがこぼれたことで、

「おまえのような子は……」

という母の声は涙にまじり、いかにも辛そうに軀をこめて引き返して行った。

バスはG町の駅前に停車した。

依子の足は駅の待合室へ急いだ。ジーパンのポケットから十円玉を掴み出し、赤電話へ投入する。

事務員らしい女の声が聞こえると、依子は名を偽って達男を呼び出してもらった。

G町を南北に分けて、吉野川が流れる。依子は、大川

橋の欄干に肘をつき、その川の流れを見下ろしていた。上流から吹く風が心地よい。時間を忘れそうになって、腕時計を見た。

この場所から数分下ったところの喫茶店で、達男と会う約束をしていた。まもなく、その時間になる。顔を上げて、喫茶店のあるほうを見やったが、また虚ろに目を

川へ戻した。

父の病院から去った直後に、依子は劇団を持つ男と暮

らし始めた。経営は不振で、依子が働いて得た給料も劇団の費用に持っていかれるので、生活はいつも困窮していた。しかし、焦ったり諦めたり愚痴をこぼすこともなく、ただひたすらに脚本を書き、演技指導に悩む男の姿に、依子は充足していた。

「辛抱も、あと少しでお願いします」

そんな言葉が珍しく男の口からもれた矢先だった。思いがけなく依子は急性の胃潰瘍で入院した。見舞いに来ない男を恨めしく思うことはあっても、男を信じていた。

ところが自宅療養にアパートへ戻ってみると、男の所持品は何ひとつ残されていなかった。どこにそんなお金があったのか、高級マンションで他の女と同棲していた。

ひとりで出歩けるようになると、依子はそのマンションを訪ねた。ビキニの水着をつけた十七、八の女の子が、息を弾ませて応対に出た。モデルタレントとして、テレビにも出演していると耳にしていたが、依子を訝しげに眺める瞳に、未熟な硬さが残る軀には似合わない、生活の垢から生まれたような卑しいものがくずぶついていた。

「あんた誰？」

「あなたに用事があった来たんじゃないわ」

女の子はふんと鼻をならして奥へ引っ込み、しばらくしてスロープに身を包んだ男の胴に腕をまわしてやってきた。

「先生の知り合い」

先生と呼ばれた男は、依子を見て眉をひそめたまま黙

っている。

「まさか、この野暮ったい人ともできてたんじゃないでよう」

今度は男の首に腕を巻き付け、

「どうだっていいけどさあ」

男の頬に唇を押しあてた。赤いキスマークができたのを指で突つき、女の子は下品な高笑いをあげた。その

笑いはなかなか止まらなく、はっとした時には、首に回された女の子の腕を依子は爪で引っ掻いていた。



男から飛びのいた女の子の腕の一点に、みるみる朱い半球が盛り上がった。その鮮やかさに錯乱し、依子は女の子の軀につかみかろうとした。

「やめろ。この子はおまえと違って高いんだぞ」

男が女の子の前に立ち塞がった。

マンションを飛び出した後、どこをどのように走ったのか、依子は覚えていなかった。足の幅よりわずかに広い溝へ、足を踏みはずし、塀へ寄り掛かったときになって、自分のアパートの数メートル先まで帰ってきていることに気がついていたので。

その晩、元氣か、と母から電話があった。ふがいなく、涙がこぼれそうになった。電話が切れた後もその場から離れず、親子なのだから、という言葉葉を胎玉のように舌先で嘗め回していた。忘れていた故郷の景色が、昨日までいた場所のように脳裏へ色濃く浮かび上がっていた。

クラクションが三度なり、振り向くと、△野田メリヤス△と黒字で印刷されたベージュ色の車が橋の上で停車し、達男が窓から首を出していた。

「乗って」

助手席に座ると、車は鈍い音をあげ、走り出した。腕時計を見ると、時間通りだった。

「ここにいて、すぐにわかったの」

「ヨッコちゃんは目につくもんなあ」

達男の声は弾んでいた。

車は対向車の少ない山裾の狭い道を縫って行く。山肌が黒く陰り、集落から外れてぼちりぼちりと立つ民家の窓から、橙色の灯りがもれる。

名前の知らない川沿いに着いた。

開け放した窓へ、河原から涼しい風が舞い込む。風に誘われ車を降りた。達男が足早に追ってきた。

色白の顔に、紅をあしらったような唇がある。紅いだけでなく男としてはかなり目立つものを、彼の唇は赤ん坊が母親のおっぱいに吸いついたまま成長したような、上

下にめくれあがつた形をしている。

「じっと見るのん、やめてえなア。ヨッコちゃんて、むかしから、そうしてじろじろ見る癖はあったけどなア」

達男は小石を拾い、軀をやや斜めに倒して川面へ石を放った。石は三度しぶきをあげ、水の中へ吸い込まれた。

「何で、僕がヨッコちゃんの家で世話になつとるんか、それが聞きたうて、僕を呼び出したんやろ」

「わかつてるなら、早く話してよ」

小さな時分から、依子のほうが横柄な物言いをする。背ばかり高くて威厳のない風貌から、糸こんにやくと徒名までつけたことがあった。従兄妹の間柄だが、伯父がよその女に産ませた子供で、血のつながりはない。小学校の入学直前に引き取られてきた。

親戚が苦手な依子も、日町にあるこの家だけは一人で列車に乗り、泊まりがけで遊びに行ったものだ。無頓着な伯父の性格、この付近には珍しい洋風建ての家も楽しかった。しかし、第一には、伯母にこっぴどく嫌われ、親戚の枠組からぼつと疎外された立場の達男に、依子の好奇心はそそられていた。

脅えを含んだ目で伯母の顔色を盗み見る達男は、狭い小屋の中で飼われた鶏のようにおどおどしていた。

彼が高校三年の夏、伯父が不慮の事故で亡くなった。親父がおるから我慢できるんでア、と言っていた通り、葬儀の翌日、彼は家を飛び出していた。

「七年間も、どこで何をしていたの」

達男は、影絵のような辺りの景色へ見るともなく視線を流し、

「大阪、神戸、名古屋……ヨッコちゃんが東京の短大へ行ったと知って、東京で働いていたこともあったでア」

「へえ、東京のどこ？」

「もう、あちこち」

笑って膨らんだ彼の声が、穴があいたように萎んでいく。

一年に一度、こっそりと日町へ戻り、伯父の墓参りを

した後、村へも寄っていたと言う。ちょうど去年の夏、村を歩いているところを父と出会ったらしかった。伯母には、会ってない。会いたくない、と憎々しげにきつぱり言った。

河原一帯の広い範囲にわたり、地虫が低い響きをたてていた。まもなく、すっかり暮れはて、石も川も木も見分けがつかなくなりそうだった。

「帰らんと」

息を詰めた面持ちで、達男が依子を見つめた。

「G 駅まで送って、一緒に帰って詮索されるのはうっとうしいから」

「バスがないでア」

「タクシーよ」

こともなげに言う依子に彼は押し黙り、前屈みで歩いて車へもどった。走行する車の中で、依子が何を話しかけてみても、彼はすねたように唇をへし曲げていた。

G 駅の手前で停車すると、達男は交通安全のお守り袋に手を伸ばした。慌ただしく動く指先が千円札を抜き取った。

「タクシー代でア」

依子の胸元へ突き出す。

依子は手品を見た時よりも驚き、それからこそばゆい笑いが口の中にあふれかえった。

「妙なところへ、お金を隠す趣味があるんやねえ」

「そんなことはどうでもええから」

真面目に睨み、手に千円札を強硬に押しつけた。

いつものように座卓を挟んで父と達男が向かい合う。

そこへビールを運んできた和美が、慣れた足取りで達男の傍へ擦り寄り膝をつく。野菜サラダを盛った器を手にもが、居間の隅で新聞を広げている依子に、

「あ、あんたも一緒に」

と、達男がちに言う。他に誰も声をかける者はいなかった。依子を仲間に入れることを拒んだ父の背が、他の三

人にも影響を及ぼし、依子の存在を無視したように、彼らだけの日曜日として振る舞おうとしているのだ。

「この十一月にな、達ちゃんのお嫁さんにならるひと」この食事が始まる一時間ぐらい前に、母は、和美を紹介した。きまり悪そうに細い目をしばたたく母の隣で、少女趣味的なりボン柄のエプロンをした和美は、下膨れの頬を幸福そうに紅潮させ、杓子定規な札をしていた。

先日、達男は結婚の相手がいることなど、匂わせもしなかった。帰郷以来、一言も口をきかない父はもちろん、母も今朝まで隠していた。冷蔵庫が買い替えられ、電子レンジの購入された台所は、今では依子より和美の軀が慣れ親しんでいるのだろう。依子は惨めな不快さをかみしめていた。

「もうすぐ昼ごはんになるけど、おまえ、お腹すいとるやろ、先に食べたらええでア」

母が、一人分お願い、と言うと、和美はすっかりわかつているような動作で冷蔵庫の扉を開け、肉の包みを取り出した。

「よしてよ、私に氣を使うのは」

「別におまえに氣なんか。ステーキ用の肉だから、どうせ一人分ずつ焼かなくちゃいけないし、ねえ和美さん」和美の手前があり、懸命に氣張って言う母は、その首に二本の青筋を浮かべていた。和美は包みを握ったまま、窮屈そうに肩を縮めて足元に目を落としていた。

母が、先に食べたなら、と言ったのは、この時すでに苦い昼食風景を想定していたからなのだ。依子は、苦笑を浮かべて立ち上がった。

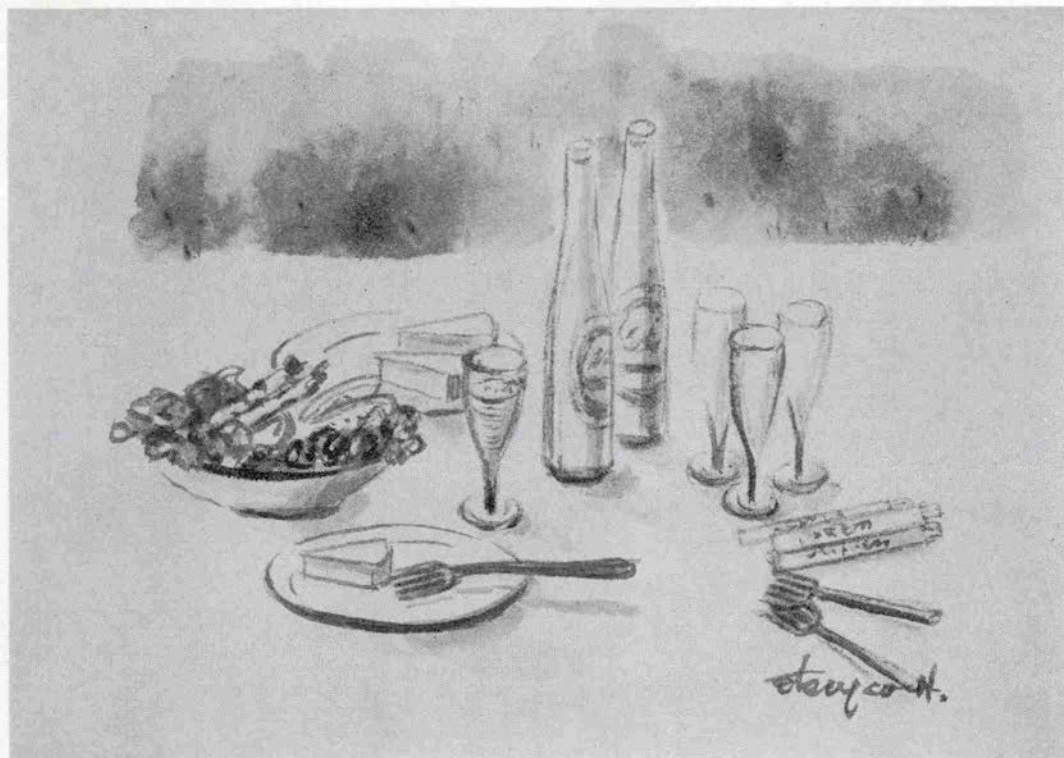
あつ、と母が口走って依子を見上げ、和美が見上げ、少し遅れて達男も振り返った。しかし、ついできれ、と言う父の一言で、皆がいつせいに父のほうへ向き直った。一人だけ閉め出しにあった屈辱を、依子は廊下を歩きながら噛みしめていた。

部屋へ戻るなり、ベッドへ軀を投げ出すと、依子は胸底に溜まった泥を掬い上げようとして、長い長い息を吐



いた。四人がそれぞれに憎かった。しかし、一番嫌悪するのは、目に同情と困惑をちらつかせながら、父の機嫌をとっていた達男だ。

天井の雨染みに苛立たしい感情をぶつけている内に、ふと十年以上も前の出来事が、汚れた輪の上に重なり浮かんだ。



まだ中学生だった頃、台所の床へ、天井から蛆虫がぼとぼと落ちてきた。母が半ば目をつぶるようになって、新聞紙で床の蛆虫を取って捨てた後、天井へ殺虫剤を振り掛けた。「天井裏で、鼠か何かが死んでおるんじや」

父は、そう言ったが、自分から上って行こうとしない。ちょうど、その時、伯母に連れられて達男が家に來ていた。上がつといで、と伯母が顎を突き出した。彼は、伯母の頼みには、首を横に振れない子供だった。天井裏では父の予想通り、大きな老鼠が死んでいた。死骸を新聞紙に包んで降りて來た彼は真っ青で、軟弱な軀は、今にも前につんのめりそうに見えた。

後始末を終えて戻ってきた彼の指先に目をやり、

「ああ、気色悪う」

伯母が身震いをした。

「おまんを前に夕飯を食べると、蛆虫が目に浮かんてくるでア」

彼だけ後回しにしたのだ。

縁側で膝を抱えて丸くなった達男の姿態は、台所の蛆虫よりも醜惡だった。食卓をおどおどと窺い見る目は、泣いてもいないのに、涙袋が赤く腫れ上がっていた。